



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2021年11月1日

11 月 第237号

奈良・人と自然の会



＜猿沢池漁礁作り（みんなの想いが書かれた古代瓦で）＞



Contents

ホームページでは、**カラー**で見ることができます

URL <http://www.naranature.com>

ならやまプロジェクト	1	私の猫作り穴窯（薪窯）	6
Monthly Repo ならやま	2	ならやま投句箱	7
里山の今（里山・果樹）	3	行事案内・会員動向	8
里山の今（虫・花だより）	4	幹事会報告・編集後記	9
猿沢池・漁礁設置レポ	5		

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず
あなたも私も・力合わせて

コロナ禍は第6波に対する不安が大きいものの、すべての緊急事態宣言が解除され、一定の感染対策を講じつつではあるが、社会活動も少しずつ日常を取り戻しつつある。10月には久しぶりに一日を通じての稲刈りを中心とするイベントも実施され、秋の実りに感謝しつつ、子供たちの笑顔に元気をもらった。

季節は一転して寒さを感じる中で、お昼の暖かい味噌汁ありがたい。先のアンケートでも感じられたが、心休まる里山の原風景、素晴らしい仲間とのふれあい、汗を流す爽快感、生活の一部となっているならやまでの活動を大切にしなければと改めて思う。つらく悲しい出来事もその礎になってくれるだろう。

アンケートも配布され、それぞれのグループではこれからのならやまの行方についてさまざまな意見が出てきているようだ。「明るく・楽しく・無理をせず」とは言いながら、この楽しい「場」もただ楽しいだけでは崩れ去ってしまうかもしれない。どうすれば維持し、さらに前に進むことができるのかについて、真剣に考えるべき時が来ているように思う。

カエデなどの植樹を含めた学びの森周辺の整備、竹林整備の作業が加わるほか、各グループでも忙しい時期を迎える。無理のない計画的な取り組みに心がけたい。

11月の活動特記事項

協働活動：11月7日 アダプトプログラム

- ① 竹林の状況調査と整備
- ② 学びの森周辺整備（水路整備とカエデなどの彩りのある林に）
- ③ 東池の状況確認と今後の対応を決定

11月の各グループ活動予定

グループ	活動予定
里山	枯死木伐倒、林内整備、薪割り、チップ作業 ユート：皆伐地区・松山平草刈り
エコファーム	玉ねぎ移植、エンドウ種まき、ジャガイモ畑準備 ダイコン・葉物野菜施肥、冬物野菜収穫、ぼかし肥料作り、水田整備
景観	整備：竹林調査・整備、ミツバチ巣箱整備 ビオ：水路・池・木道整備、西池水生生物調査 花：草引き、山野草園の花を東側花壇に移植
パトロール	1～4コースパトロール、観察路整備（丸太階段補修その他） BC前階段更新
果樹	実りの森除草、キウイ棚設置工事、鹿よけ対策、実りの森B地区竹囲い設置

活動日：毎週木曜日 9:00～15:00

前日水曜日の19時現在の気象庁予報（NHKTV奈良 19時前放送）の天気予報で、奈良県北部の午前中の降雨確率60%以上の場合は翌金曜日、木曜日にも同予報であれば中止



Monthly Repo. ならやま

富井 忠雄

9月23日(木)活動 晴れ 66名

翌24日は本会創立20周年に当たる日である。当初から20年継続されている会員が今日の活動にも数名が参加されていた。

里山Gは部分皆伐地で下草刈り、チップパー機による枯れ枝の粉碎処理、エコGはゴボウ、ナス、ゴーヤの収穫、ダイコンへの施肥、水田の除草作業を行った。景観Gは倒竹の除去作業、観察路の草刈り、ビオ班は西池北の湿地通路の整地を行い、花班はサイクルロード沿いの花壇の除草をした。パトGは観察路の笹刈り、機関車モニメントの仕上げを、また。果樹Gはウメの剪定を行った。

午後から四阿でならやま委員会が開催された。

**9月30日(木)活動 晴 64名**

定例の備品調査の日であり、改めて各グループに調査報告が求められた。

里山Gは里山林内整備、下草刈り、薪割りを、エコGは豆跡地への牛糞入れ、秋野菜の間引きなどを行った。景観Gは彩の森の整備、ビオ班は水生生物の調査、花班はビオトープの菖蒲園の草取りをした。パトロールGは、学びの森、エントランス広場の整備、果樹Gは実りの森の除草、栗の収穫など行った。

終礼(14時30分)の後、駐車車両がなくなったのを見計らって第2駐車場の水路整備のための草刈りを有志数名で実施した。

10月7日(木)活動 晴れ 73名

朝礼で、先週30日の活動終了後に、不慮の事故によって西谷範子さんが亡くなったことが、会長から事故の状況を含めて説明があった。つらく悲しい事故であるが、気持ちを切り替えて前に進みたいとの決意とともに、1分間の黙祷をささげた。

第2駐車場周辺の浸水対策として、溝掘りを協働活動として実施した。

里山Gは里山林内整備、下草刈り、薪割り、エコGは大根類の土寄せ、野菜類の除草、施肥を行った。景観Gは彩の森周辺草刈り、ビオ班は西池水生生物調査、花班は皇帝ダリア周辺草刈り、山野草園草刈りを実施した。パトロールGは観察路整備、学びの森の整備、果樹Gはキウイの植え床作り、給水タンクの設置などを行った。

10月14日(木)活動 晴れ 75名

緑の環境プラン大賞に入選したとの報告があった。これにより、学びの森周辺の整備をさらに進めることができる。

平城東公民館主催のタウンウォーク参加者約20名強がならやまを見学に訪れた。地域の方が多く、入会してくれればありがたい。

朝日親と子の自然教室イベントを成功させるべく、里山Gは遊びの森で子供たちを受け入れる準備、エコGは安全で楽しい稲刈りをしてもらえるよう、景観Gでも子供たちを迎える水田周辺の草刈り整備とそれぞれ準備に忙しい。

そのほか、里山Gは下草刈りや薪割り、景観Gは彩の森の整備、ピオ班は西池水生生物調査、水路泥上げ、花班はシャーマンアイリス周辺とあやめ周辺の草刈り。パトロールGはモニメント制作、展望広場の整備、倒木処理、果樹Gはキウイの植え床作り、イチジク周辺除草、実りの森の除草などを行った。

また、朝日親と子の自然教室イベントでお披露目しようと、機関車とウェルカムポールを作りを上げた。

里山グループ

*美しい里山林とは

中井 弘

日本は戦後復興のために木材供給源としての山林政策を推し進め、その結果多様性のあった森を成長の早い杉・檜の針葉樹に切り替え、画一的な森に変えてしまった。

近年宅地造成にも美しい里山の価値が見直されてきていると聞く。そうになると森づくりにも「美しい風景」という概念が必要となる。森の美しさには、豊かな森、多様な樹種の森、健全な森であることが求められるようになった。遠目には緑に覆われた雑木の放置二次林、間伐・下刈りで整備されたコナラ林や針葉樹の森が「美しい」と感じられるだろうか。

「ならやま里山林」では「自然の森」は放置して自然に任せたが、ほとんどのコナラがナラ枯れとなり、林床は背丈より高い笹で覆われてしまった。一方「里山林」は常緑樹など雑木を伐採して整備を進めた結果、主要樹種のコナラには力が漲(みなぎ)ってきたように見える。間伐、植樹、下草刈りなどで適切に管理された活動成果が表れてきている。しかし我々が美しいと感じる「ならやまの森」となったのだろうか。美しい里山林とはどのような森林なのだろうか。

それは、適切に管理された上に明るく色彩感のある森林ではなかろうか。コナラ・クヌギに

加えカエデやヤマザクラ、コブシ、栗などを混ぜると、紅葉だけでなく、多様



な色彩の新緑が美しい。林床にはツツジ類やラン類など花の美しい木本・草本などがほしい。四季を通じて明るく色彩のある森が期待できる。

景観の純粋な美しさにも目を向けた森づくりを目指したいと思う。



果樹グループ

*梅ジャムづくり

辻 敏美

今日が締め切り日、大変だー！ どうしよう～、苦手な事はなかなかはかどらない。ギリギリにならないとできない。昔から！

私は果樹 G に入ってからちょうど 1 年になります。初めての作業はいっぱいあったけど、その中でも女性陣で頑張った「梅ジャム」販売の事を書きます。

まずはみんながそれぞれお試して作った梅ジャムを持ち寄り試食しました。たまたま熟した梅で作ったので色がきれいだということで、私のレシピで作ることに、ヤッター！ スマホで検索したものです。みんなで梅・砂糖の割りあい、作り方を共有しました。

いざ販売用の梅ジャム作り。ならやまから梅を持ち帰る。まだまだ青いし、傷もある。この梅でジャムを作るときたない色になる。もう少し黄色になるまで待つことにした。少し黄色くなってきた。でも傷みもでてきた。もうそろそろ作らないと傷んだ梅ばかりになってジャムができなくなる。5人のうち3人はもう作ったとラインがきていた。あせる！ なんとか使えそうな梅が2kg、梅ジャムを作る。朝から一日仕事です。瓶も消毒し、150mlで10個+試食分ができました。あ～良かった、ホッとしました。まずまずの出来上がりです。いい日を見計らって、いざ販売へ。初日は17個売れ、完売とは程遠く私はまるまる10個お持ち帰りでした。2週目もまたお持ち帰り。頑張って作ったのになかなか売れない。こんなにおいしいのに。3週目、やっと売れた、あ～良かった！ 前に買った人がおいしかったとまた買いに来てくれた。うれしい！ ヨーグルトにととても合い性がよく、おいしいとわかってくれはったんや。作るのに大変やったけど、来年はもっと売れる気がする。「梅ジャム」づくり、来年も頑張ります。

虫だより



花だより

*戻ってきたジャコウアゲハ

菊川 年明

ならやまからジャコウアゲハが姿を消して久しく、絶滅したものと思っていましたが、この夏、ひょっこり戻ってきました。3年ぶりのことで、たいへん喜ばしいことです。幼虫もたくさん生まれました。

ジャコウアゲハの幼虫の食草はウマノスズクサという植物で、この植物は限られた場所にしかありませんので、このチョウの生息場所も局地的です。そのような事情で数は少なく、少し珍しいチョウです。

3年前、姿を消した原因をいろいろ考えてみたのですが、ジャコウアゲハが生息していた他の場所でも同じ頃から見かけなくなりましたので、たぶん天敵の寄生バチが寄生バエの大発生でもあったのではなかろうかと推測しています。

ウマノスズクサは有毒植物で、これを食べる幼虫は体内に毒成分を蓄え、成虫になっても毒性分を体内に残していますので、野鳥はジャコウアゲハを捕食しません。そのことをこのチョウがどうして知っているのか不思議ですが、野鳥を恐れずに悠然と飛びます。また、野鳥が、このチョウの体内に毒を蓄えていることを知っていることも不思議です。本能でしょうが。人も恐れません。私たちの目の前を悠々と飛ぶのはいつものことです。アゲハチョウ類の中で最もゆっくり飛ぶチョウです。

ジャコウアゲハという名前の由来ですが、このチョウのオスの腹端から麝香(じゃこう=香料の一種)のような匂いを出すことによります。

2021.8.26
撮影



*ならやまの花たち

桜木 晴代

ならやまの花を思う時、西谷さんのことで心と頭がいっぱいになります。

西谷さんとの最後の会話は8月。紫陽花をサイクリングロード沿いにも、との私の思いを耳にしていること。「あんたなー、毎日、水やりに来てくれるか?紫陽花は水をやらんと育たんのよ」と。毎年、色とりどりの美しい花を咲かせるあの紫陽花は、西谷さんが、挿木で増やし育てたもの。移植後、きっと毎日水やりをしていたのでしょう。敬服です。今では、紫陽花の季節には、多くの種類の色とりどりの花が活動日に私たちを楽しませてくれています。

ならやまの花たちは、西谷さんの手がけたもので満ち満ちています。私は、川井桜のように、西谷あじさい園、西谷ガーデンと心の中で命名しています。

園芸種もたくさん美しい花を楽しませてくれますが、何種類もの山野草も植えられています。あちこちで繁茂しているアレチヌスビトハギでなく、在来種のヌスビトハギがあずまや横に植えられています。西谷さんが植えたものです。今は種をつけています。

山野草園のホタルブクロ、オミナエシ、ノカンゾウなどの花は終わり、今は、フジバカマのみが満開です。フジバカマはアサギマダラが好む花として知られています。ジャコウアゲハの集まるウマノスズクサも年々大きく育っています。



フジバカマ



ヌスビトハギ

西谷さんの笑顔と花たちは忘れ得ぬ宝です。

猿沢池に漁礁を作りました (ひとななプロジェクト参加 Rep)

田中 善英

10月12日

(火曜日) 12時30分、興福寺・猿沢池の畔に、総勢16名が集まりました。



そして、「ひとななプロジェクト(事務局:近畿大学農学部環境管理学科水圏生態学研究室)」の活動に賛同し、猿沢池の中に興福寺の古瓦を使った5基目の漁礁を作りました。



漁礁に使う瓦は江戸時代に行われた興福寺の修理の際に出た古瓦17枚です。

この古瓦(文化財)にならやまの四阿で、約50名の方が「自然への思い、願い、祈り」を墨で書きました。



まず、古瓦17枚を全部並べて、近畿大学北川先生から、漁礁について説明していただきました。

漁礁は観音様の縁日

にちなんで17枚で作り、下から7枚、5枚、3枚、2枚を積み上げます。この瓦の枚数には意味があり、素数(7, 5, 3, 2)で組み立てることにより「切れない絆」を表現しているとのこと。そして、この漁礁は古瓦自体が持つ水の浄化作用が期待できることや小魚等の隠れ家となり、水性生物の繁殖を促すことによって猿沢池の水質や環境の改善を進める効果があるとのこと。そして、我々は話を聞きながら、自然の保護、環境保全は人や自然との縁、絆の大切さ、これらの縁、絆なくしては実現できな

いという思いを感じることができました。

いよいよ作業開始です。全員で瓦の墨書きを見ながら漁礁のどこに使うのかを相談し、陸の上で組み立てました。瓦の表面(墨で書いた側)を下にして積み上げます。



瓦の裏面には年号や、瓦工の名前のような文字もあり、ワイワイ言いながら組み立てました。



そして、積み上げた漁礁を前にして記念撮影しました。それから、北川先生ら5名が池の中に入り、池の中に漁礁を造ります。池の上から水の中にいる人に瓦を手渡し、池が深いので恐る恐る、慎重に。



次に、受け取った瓦を5人で協力して池の中に沈めました。

漁礁は猿沢池の碑のある北西の隅から東に向かって道路沿いに並んでおり、文化財として扱われます。「奈良・人と自然の会」の漁礁は5番目に設置しており、猿沢池で生き物の棲み処になって環境と生き物を守り続けることを願いながら猿沢池を後にしました。



また、この日、南円堂の近くに「ひとななプロジェクト」に募金ができる自動販売機が設置されました。

「我が会」の会員が募金者第一号です。

人と自然、絆を感じた一日となりました。

私の猫作り穴窯(薪窯)

小島 武雄

その窯は、京都府南丹市八木集落から車で10分程離れた山の中にあります。

雑木林の斜面地に穴を掘り抜いて土で固めた築山の様なものです。

NHK 朝の連続ドラマの『スカーレット』で女性陶芸家が、何度も失敗しながら焼き上げた窯と形は同じです。

人が潜れる程度の石組みの出入り口から、奥に何列も何段も素焼きの作品を積み上げていきます。窯の中が一杯になると、入口を塞いで、いよいよ

薪窯の開始です。火を起こし、少しずつ薪を投げ入れて燃やしていきます。早朝の窯の中の温度は5度程度です。徐々に徐々に温度を上げていきます。急激な温度変化は、ひび割れにつながります。

ここから3昼夜の作業開始です。1日目はゆっくり900度くらいまで、2日目に1200度に、それからこの温度を維持して60時間燃やし続けます。

三人交代での徹夜作業で見守ります。燃やすのは赤松の割木、2トントラック1台分(500束)を使います。割木10本ぐらいを約1時間おきに穴から投げ入れ、その都度ノートに温度を確認し記入していきます。

入り口は耐火煉瓦で塞いでありますが、それを鉄の金具でこじ開けるときに、煙突から、ゴッソと火花が舞い上がり、朦々たる黒い煙が吹き上がります。

窯の中から焼き物の黒い影を飲み込んだ、強烈な黄色い炎色が目に飛び込んできます。夜の闇の中で、黙々と窯焼きの作業が続きます。時

折、疲れた腰を伸ばして見上げる夜空は、明るく星が煌(きら)めいて、周りには虫の声もなく静かです。

穴窯には釉薬を使いません、信楽土の中から溶け出した成分が釉薬代わりになるそうです。

直に炎が当たる所は焼け焦げ模様に、また薪の

焼灰をかぶる所は、凹凸が出来て微妙な灰色の味が出るので、積み上げる時に作品の向きや置き場所にも気を配っています。

そして、やっと窯の火が消えて1週間経ち、まだまだ熱い窯作品を取り出します。

今年の作品は、狛猫と歩き猫です。沢山の皿や壺、茶碗に囲まれて、それらは私を待っているはずでした。残念ながら、今年も穴窯は中止になりました。窯焼き作業が大変な密になるからです。

狛猫と歩き猫は、来年までコロナ収束を願って、寝て待ってもらう事になりました。



黙々と窯作業(2年前)↑



穴窯に入れる前の素焼き歩き猫 ↑



穴窯に入れる前の素焼き狛猫 ↑
焼き上がり取り出し
←(2年前)

ならやまトーク・投句(十一月編)

手術終え見上ぐる空に鯛雲

笠井文夫

(腰骨の手術の後、病室から見上げた空は秋。リハビリも頑張る)

新涼の朝に再開一万歩

藤原 勲

(残暑も終り、コロナも先が見えていい気分。いざ万歩に挑戦)

秋天や遠山の上雲ひとつ

藤原 勲

(采菊東籬下 悠然見南山 の心境とも・・・)

ナナカマド葉を翻し風の道

中井 弘

(秋の檜沢、ナナカマドの紅葉が翻って、風の道が見えてくる)

「自粛延長」秋茄子の畑速く

岡田安弘

(なお緊急事態中。ならやまの秋茄子は如何。もどかしい思いが)

土用蜆お代わり欲しい薬食い

阿部和生

(しじみ汁は五臓六腑を改善すると。長引く残暑対策にお勧めです)

孫描くじいじの顔の夏疲れ

ハ本順一

(可愛いお孫さんの無邪気な絵。驚いて鏡を見る。どうぞお大事に)

大空に怪魚うごめき鱗雲

ハ本順一

(鱗雲が覆うともう秋。それは怪魚か竜か。雲は天才と言った人も)

天高しノスリ輪を描く佐紀の杜 坂東久平

(ならやまの空の高みをノスリが悠々と輪を描いていました)

休日に若者の乗る稲刈り機

坂東久平

(稲刈りシーズンイン。休日は一家総出、畦で見守る両親)

秋風にパリパリパンと薪割機

坂東久平

(涼しくなつて山作業も楽になった。薪割り機も一段とご機嫌だ)

落ち栗やもう先客の孔一つ

古川祐司

(実りの森で初物の栗をゲット。残念、先客の虫が住んで居るよ)

新そばや孫が相手の味談義

古川祐司

(新そばや 味判るか。うん、粉が違うね! ん? 腕も違うのだ)

刈取りの子ら待つ稲穂黄金色

藤原 勲

(もう稲穂は準備万端。田植えた小学生の刈り取りを待つばかり)

飛火野のオオクスノキや秋菫

藤原 勲

(広々した野に天皇行幸記念の大楠。その周囲に赤蜻蛉が悠々と)

ユウスゲと教えし君を偲ぶ夜

阿部和生

(西谷さん逝く。美ヶ原の一泊研修で教わったユウスゲを思い出して
面影を偲んでいます。 「合掌」)

行事案内



自然教室・11月自然観察会

晩秋の奈良公園・紅葉狩り

辻本 信一

季節外れの残暑が思いのほか長く続きましたが、季節は巡り、自然観察会にとっておきの季節を迎えました。

自然教室チームでは10月に引き続き、奈良公園にて毎年恒例となっている紅葉見物（紅葉狩り）を11月24日（水）、下記要領にて実施いたします。

1. 日 時：11月24日（水）
午前9時～正午（予定）
2. 集 合：近鉄奈良駅 行基菩薩像前
3. 持ち物：お飲み物、（あれば）ルーペ
4. 雨天実施の有無：申し合わせ通り
5. 担 当：自然教室チーム

辻本

「ならやま」での活動を通じ、日々奈良の自然に親しまれている皆さまですが、最近のコロナ禍により奈良公園に出かけられる機会も少なくなったのではないのでしょうか？

「いつでも出かけられる」の感覚が、つい足が遠のく原因となっている方もおられると思います。是非、この機会に今回の奈良公園での自然観察会にご参加ください。

12月ならやま活動&行事予告

- *ならやま活動（木） 2日 協働活動日
9日 芋煮会 23日 迎春準備
*月例研修会 6日（月）矢田丘陵

会員動向（敬称略）

<退会者>

9月30日：西出 勉、平馬 一美
西谷 範子

ペタキン先生の講演と“忘年懇親会”

吉川 利文

「ペタキン先生」こと、ニッポンバラタナゴでおなじみの近畿大学農学部北川忠生准教授の講演会を下記のとおり開催します。題して「畑を耕す魚類学者」。講演会終了後は、北川先生を囲み、忘年会を兼ねた懇親会を開きます。

コトの始まりは、9月15日付けの朝日新聞社会面トップ記事。「世界遺産・興福寺（奈良市）の池の泥を肥料に使用、僧侶と近畿大学の学生が奈良のブランド野菜『大和野菜』を育てている」と大きく報じられたことです。「仕掛け人」は北川先生。「面白い!」。会員の中から、「北川先生に詳しい話を聴こう」との声が上がり、幹事会が即応しました。

ならやまのビオトープでお預かりする絶滅危惧種ニッポンバラタナゴの世話をたびたびならやまにお越しになっている北川先生ですが、私たち会員とはせいぜい朝礼でのご挨拶をうかがう程度。灯台下暗し。北川先生は興福寺とタイアップしながら、さらにいろんなことをなさっています。講演会ではまず「魚博士が大和野菜を作るワケ」を聴かせていただき、加えて、さまざまな取り組みをされている背景など、その知恵の一端をお聞きし、ならやまの事業を活性化するカギをみつけられたら、と願っています。さて、どんな夢のあるお話が聴けるやら…。

引き続いての懇親会には「北川プロジェクト」の学生たちにも加わってもらい、次世代との交流も図る予定。今年はこれがならやまの忘年会、いわば“忘年懇親会”です。

- ① 日時 12月18日（土）13:30～15:00
- ② 場所 ホテルリガール春日野

[Tel:0742-22-6021](tel:0742-22-6021)

- ③ 懇親会：15:00～ 会費 4000円。
- ④ 参加者用シャトルバス

JR奈良駅前12時40分発、
近鉄奈良駅12時50分発

講演会担当：吉川、田中善

懇親会担当：富井、太田、戸田

2021年10月度 幹事会報告

日時：9月28日(火) 15:00～17:00

I 会計、総務部より

- ・会員動向：会員162名 変更なし
- ・会計報告：残高は多いが、今後、図録、水路、周年事業などの特別支出あり

II 活動・行事関係

- ・芋掘りイベント：中止
- ・10/7よりならやまで味噌汁を始める
- ・10月より蕎麦クラブ自主研修会を開催
- ・10/28 京大の徳地先生来場 ワークショップ
- ・忘年会、新春講演会の予定

*ならやまプロジェクト関係

- ・9/30 備品在庫管理を行う
- ・10/7 協働活動：第2駐車場の水捌け対策
- ・10/12 猿沢池の魚礁設置作業
- ・10/28(木) 会員だけの芋掘り
- ・草刈機は各Gで管理、メンテナンスを

III 企画、助成金事業案件

- ・図録集：ならやまの木々たち ほぼ編集完了
- ・記念誌：原稿収集中、座談会予定、各G研修を進めてほしい
- ・各種助成金、交付金事業
 - 竹林整備を10月より開始する
 - 必要維持経費は自己資金だけでは不足するので外部調達は必要
 - 資金繰りはかなり窮屈な状態

IV 喫緊、提案事項

- ・近大の北川先生に講演依頼する
(猿沢池の泥を有効活用した大和野菜栽培などの取り組みを含めて)

V 広報、関係

- ・ネイチャーなら11月号編成案の確認他

VI 報告、連絡事項、その他

- ・月例研修会：11/1-2に変更して実施
 - ・自然教室：11/24 奈良公園観察会実施
- 以上

次回幹事会：10/26 奈良市中部公民館 4F



<エビデンス>

最近、新型コロナウイルスのテレビ報道で、専門家だけでなくコメンテーターや司会者も、当然のように、エビデンスという言葉を使っています。新しいワクチンや治療方法、副反応・副作用が出るかどうか、出るなら何歳以上で何%発症するかの説明です。

医療機関や健康情報では「証拠」「根拠」という意味です。例えば「この薬がよく効く」と紹介する場合、その根拠が求められた際に、「有名な先生が言っていたから」、「テレビで紹介されていたから」、「私の経験が証拠」では話になりません。実験や調査を重ね、研究結果から導き出された科学的な裏付けが必要です。

ビジネスの世界でも、グローバル化が進めば今までの経験や慣例が通じないことが多い。そこで無用なトラブルを避けるため、ちゃんとした証拠をとるという意味です。ビジネス上の証拠として「契約書類」や「議事録」など、客観的で文書に残っているものが挙げられます。

「裏付けのある根拠・証拠」＝「エビデンス」ですが、日本語ですとその辺が曖昧になりかねないので、あえて「エビデンス」を使用しているようです。



発行：奈良・人と自然の会

URL : <http://www.naranature.com>

編集代表 Mail: editor@naranature.com

表紙写真：猿沢池魚礁作り（みんなの想いが書かれた古代瓦で）猿沢池の中から、見守る人々に古代瓦を披露し、「切れない絆」を表現した形に積み上げました。（詳細は5ページ参照）